

2017年度 センター試験 本試験 地理 B

第1問 世界の自然環境と自然災害

出題範囲	大地形, 小地形, 気候, 海流, 自然災害
難易度	★★★☆☆
所要時間	9分
傾向と対策	世界各地の海底地形や海流, 気候, 自然災害などについて問われた。まず, 大地形や小地形の用語を覚えてその特徴を正しくおさえる必要があるが, それらがどこに分布しているのか, どの地点がどの気候に区分されるのかを把握しなければ問題に正解することはできない。教科書で用語を学ぶときには必ず地図帳を開き, 分布も一緒におさえる習慣をつけよう。自然災害とその被害に関しては, 自然・社会条件をともに踏まえて考察することを意識しておくといだろう。

問1 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

海底地形についての問題。世界各地のおもな海溝, 海嶺といった大地形の位置と, 海底におけるその高低の特徴をおさえておけば正解を選べるだろう。

- A 大西洋中央海嶺上にある。海嶺とは, 大洋底にある水深 2,000 ~ 3,000m の山脈状の高まりであるから, 上に凸のある④の断面図が当てはまる。
- B 日本海溝からつながる伊豆・小笠原海溝上に位置する。海溝は, 海洋プレート (線 B では, フィリピン海プレート) が他のプレート (線 B では, 大陸プレートであるユーラシアプレート) の下に沈み込む部分に形成される細長く深い凹地である。したがって, 水深約 9,000m の溝の見られる③の断面図が当てはまる。よって, ③が正解である。
- C 安定陸塊であり低平なオーストラリア大陸近海に位置し, ごく浅い大陸棚が分布する。よって水深の浅い①が当てはまる。
- D 海溝や海嶺の分布しない大洋底である。水深 4,000 ~ 6,000m の平坦な地形を大洋底という。よって, 深度の高低差が小さく, かつ水深約 5,000m であることが読み取れる②の断面図が当てはまる。

問2 正解は⑤

難易度 ★★★☆☆

解説

海氷の分布についての問題。海域 J ~ M は, 緯度に関していえば, いずれも海氷に覆われうるような高緯度に位置する。したがって, 海氷分布の違いをもたらす要因として各海域の海水温に着目し, 海流が暖流と寒流のど

ちらなのかを考えよう。

Jには寒流の東グリーンランド海流が、Lには寒流の千島海流の分流が分布する。よって、海水温は低いため、海氷に覆われやすい海域であると判断できる。

一方、Kには暖流の北大西洋海流が、Mには暖流のアラスカ海流が分布する。そのため、年間を通じ海水温が0°Cを下回らず、海氷に覆われにくいと考えられる。

以上より、KとMの組み合わせとなる⑤が正解である。

問3 3 正解は④

難易度：★★★★☆

解説

北半球の同緯度上にある4地点ア～エの、最寒月・最暖月平均気温と最少雨月・最多雨月降水量の差異を考える問題。気温の年較差は一般的に、海洋・沿岸部や大陸西岸地域で小さく、内陸部や大陸東岸地域で大きくなることに注意しよう。

ア 地中海沿岸に位置し、地中海性気候(Cs)に属する地域である。地中海性気候の特徴は、夏は亜熱帯高圧帯(中緯度高圧帯)に入り高温乾燥、冬は亜寒帯低圧帯(高緯度低圧帯)に入り低温湿潤となることから、Qのグラフが当てはまる。

イ 隔海度の大きい内陸部に位置するため、気温年較差は大きく、年間を通じて降水量は少ない砂漠気候(BW)となる。よって、最多雨月の降水量も少ないRが当てはまる。これは、グラフの気温年較差が大きいこととも整合する。

ウ 北アメリカ大陸西岸に位置し、アと同様に地中海性気候(Cs)に属する。よって、夏に乾燥し冬に降水量が多い。アと異なる点は、ウは沖合を寒流のカリフォルニア海流が流れるために、夏にも気温が高くなりやすく気温年較差が小さいことである。したがって、最暖月平均気温が低く、かつ冬に降水の集中するPが当てはまる。

エ 北アメリカ大陸東岸に位置するため、温暖湿潤気候(Cfa)に属し年間を通じ降水がみられる。また、大陸東岸なので気温年較差は大きくなることから、Sが当てはまる。最少雨月の降水量が比較的多いことから判断できるだろう。よって、④が正解となる。

問4 4 正解は③

難易度：★★★★☆

解説

沿岸部に形成される小地形の特徴についての問題。適当でないものを選ぶことに注意しながら、選択肢の地形を1つひとつおさえていこう。

① 正 砂州とは、河川が運搬してきた砂などが沿岸流で運ばれて堆積した砂嘴の一種であり、入り江や湾の入り口をふさぐような形状をしたものである。図の力は、アドリア海の沿岸部を隔てるように形成されている

ので、これが砂州であることがわかる。よって、この選択肢は正しい。

- ② 正 砂州により閉じられた浅い湖を瀉湖^{せきこ}（ラグーン）という。図から、キは、力の砂州によりアドリア海と隔てられた水域であることがわかるので、キは瀉湖であり②は正しい。
- ③ 誤 陸繋島^{りくけいとう}とは、砂州により陸とつながった島である。しかし図と問題文より、クは河川が運搬してきた土砂の堆積によって形成された鳥趾状^{ちようしじょう}三角州であることが読み取れる。したがって、この選択肢は誤りで、③が正解である。
- ④ 正 干潟とは、干潮時に現れる遠浅の海岸である。これは図のケおよび問題文と合致するので正しい。

問 5 5 正解は②

難易度：★★☆☆☆

解説

自然災害に伴う被害は社会・経済状況などにも影響される、ということに着目する問題。一般的に、先進国では、経済活動が活発でインフラの整備も進んでいるので、自然災害による被害額は発生件数の割に大きくなるが、防災や減災対策が進んでいるので被災者数は少ない。一方、発展途上国では、経済水準が低いため自然災害による被害額は発生件数の割に小さく、防災対策の遅れにより被災者数は多くなる。また発展途上国において、近年の人口急増を背景に、災害を防ぎにくい地域（例えば、洪水被害に遭いやすいガンジスデルタなど）に居住する人口が増えていることも被災者数が多い一因となっている。

本問の 3 地域は、経済発展水準の高い方から順に、南北アメリカ、アジア、アフリカと並べることができる。これを踏まえて、X、Y、Z に該当する地域を考えていく。

- X グラフから、発生件数の割に被災者数が非常に多いことが読み取れる。このことから、世界人口の約 6 割を占める人口密集地域であるアジアが当てはまる。
- Y 発生件数の割に被害額が大きく、被災者数が少ないことから、経済水準がある程度高く人口密度は低い南北アメリカが当てはまる。
- Z 発生件数の割に被害額が著しく少ないので、アフリカが当てはまる。

以上より、X がアジア、Y が南北アメリカ、Z がアフリカの組み合わせとなる②が正解である。

問 6 6 正解は④

難易度：★★★☆☆

解説

火山の噴火口近辺における火山防災マップから、想定される火山被害を考察する問題。防災マップを見て、災害発生時に多少とも起こる可能性のある事象について、その可能性を否定せずに把握する姿勢を念頭に置きつつ、1 つひとつ選択肢を吟味し、適当でないものを選んでいこう。

- ① 正 地点サの地域に火山灰が降るか否かを考える。火山防災マップの凡例を見ると、マップ上の降灰範囲は「年間に最も多い風向の場合に」予想される範囲であるとわかる。このことから、火山灰が降っているとき

に、凡例と異なる風向に変わる時間帯があれば、降灰範囲は西側にも広がるのが推測される。したがって、地点セはマップ上の降灰範囲には含まれていないものの、火山灰が積もり農作物の栽培に被害を与える可能性は否定できない。よって、この選択肢は正しい。

- ② 正 国道上の地点シは、火山防災マップによると、土石流の被害を受け得る範囲に含まれているとわかる。したがって、土石流が発生して土砂が道路を埋め、通行を妨げる恐れがあるので、この選択肢は正しい。
- ③ 正 火山防災マップから、地点スは火砕流の熱風部に入る可能性があることが読み取れる。火砕流の熱風とは、人が吸いこむと気管にやけどを負うような高温のガスであり、家屋をも消失させ得る。よって、この選択肢は正しい。
- ④ 誤 地点セは、火砕流本体の被害を受け得るだけでなく、土石流も到達する可能性がある地点であることがわかる。したがって、地点セの家屋は、火砕流だけでなく土石流の影響で損壊する可能性も十分にあるので、この選択肢は誤りである。よって、④が正解である。

(伊藤麻祐, 石川卓郁)

2017 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 2 問 資源と産業

出題範囲	農牧業，日本の農業，資源・エネルギー，工業概論
難易度	★★★☆☆
所要時間	8 分半
傾向と対策	統計資料から適切な情報を読み取って解答する問題。資源や鉱工業などの産業についての幅広い知識が問われるのが例年の傾向であり，それは今年も変わらなかった。また，今年の第 2 問は適切にデータを読み取れば確実に正答できる良問が多かった。基礎的な知識で解ける問 2 や問 5 を確実に正答し，その他の問題に時間をかけたい。なお，石炭の生産量，輸出量，消費量の多い国は頻出事項なので覚えておきたい。

問 1 7 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

日本の農業に関する問題。因果関係に注目して考えよう。

- ① 正 日本では，自給率向上のために，地産地消の促進や農業生産基盤の強化などが行われており，労力や肥料を多く用いることで，**土地生産性の高い農業**が行われている。なお，近年では流通コストの削減や収入の安定化をめざし，第一次産業で行う生産，第二次産業で行う加工，第三次産業で行う販売を一体化した第六次産業が推進されており，ブランド化などによるさらなる付加価値の拡大が図られている。
- ② 正 近年，BSE（牛海綿状脳症）や産地偽装表示などの問題が表面化し，食への信頼が揺らいだ。食への信頼を取り戻すため，2003 年に「牛の個体識別のための情報の管理及び伝達に関する特別措置法」によって牛肉の移動を追跡する仕組みである**トレーサビリティ**が確立された。
- なお，BSE 問題でアメリカ合衆国産牛肉の輸入が停止した結果，オーストラリア産牛肉の輸入が増加したことも覚えておきたい。
- ③ 正 **遺伝子組み換え作物**とは，害虫対策や栽培コストの削減のために，特定の遺伝子を組み込んで人工的に改良された作物のことである。穀物や飼料作物を中心に**アグリビジネス**で開発が行われ，日本にも輸出されている。日本では食の安全性確保のため，2001 年から遺伝子組み換え食品の安全性審査や，遺伝子組み換え食品であることの表示が義務化されている。
- ④ 誤 輸送技術の発達により，冷凍野菜だけでなく生鮮野菜の空輸なども行えるようになってきているため，**生鮮食品の鮮度を保つことは可能**である。よって，「鮮度を保つことが困難」が間違いであり，④が正解である。
- なお，生鮮食品の輸入量は 2005 年から 2010 年で減少している。これは，生鮮食品の最大輸入相手国である中国から輸入した餃子から農薬が検出されたことで中国産食品への不信感が高まったことや，2006 年よ

り食品に残留する農薬量を制限するポジティブリスト制度が施行されたためである。

問 2 8 正解は②

難易度：★★☆☆☆

解説

世界の農業に関する問題。ここは確実に得点したい。まず、GDP に占める農林水産業の割合が高い①、②と、農林水産従事者 1 人当たりの農地面積が大きい③、④で分け、それぞれの地域の農業の特徴を考えながら解いていこう。

- ① GDP に占める農林水産業の割合が **4 つの地域の中で最も高い**。よって、工業化が遅れているアフリカだとわかる。
- ② GDP に占める農林水産業の割合が比較的高いが、農林水産業従事者 1 人当たりの農地面積が③、④と比べ低いことから、家族経営による稲作を中心とした**労働集約的な自給的農業**が盛んに行われているアジアだとわかる。
- ③ **農林水産業従事者 1 人当たりの農地面積が大きい**ことから、**企業的農業**が行われていることがわかる。また、GDP に占める農林水産業の割合が④より高いことから、工業があまり盛んでないオセアニアだとわかる。
- ④ 農林水産業従事者 1 人当たりの農地面積が大きいことから、企業的農業が行われていることがわかる。また、GDP に占める農林水産業の割合が最も小さいことから、先端技術産業や鉱工業など、工業が盛んであるアメリカ合衆国を含む北アメリカだとわかる。③、④の区別はできなくても構わないが、こうした問題と直接関連しない選択肢を区別する際の考え方が他の問題を解くときに生かせることも多いので、復習の際に考えてみる習慣をつけよう。

問 3 9 正解は③

難易度：★★★★☆

解説

世界のエネルギーに関する問題。やや難しい問題だが、**バイオマスエネルギー**にはどのようなものがあるか具体的に考えながら解いていきたい。

- ① 正 近年ヨーロッパでは、枯渇の心配がなく環境への負荷が小さい**再生可能エネルギー**の利用が進んでいる。
- ② 正 バイオエタノールの原料は農産物である。アメリカでは、バイオエタノールの原料としてトウモロコシが使用されたため、トウモロコシの価格が上昇し、さらにトウモロコシを飼料とする家畜の価格も高騰するなど、さまざまな食料価格に影響を与えた。
- ③ **誤** 発展途上国でもバイオマスエネルギーは利用されている。例えば、薪は伝統的なバイオマスエネルギーであり、途上国で広く用いられている。インドでは**生ごみや家畜の排泄物から得られるバイオマスエネルギーが自給的に利用**されている。よって、正解は③である。
- ④ 正 バイオマスエネルギーは生物由来の有機物を利用した再生可能なエネルギーであり、バイオマスの燃焼

により発生する二酸化炭素は植物の光合成により取り込んだものであるため、理論上は二酸化炭素を発生させない（カーボンニュートラル）。

◆参考 バイオマス燃料

そもそもバイオマスとは、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもののことである。カーボンニュートラルの観点や再生可能資源であることから、植物由来のバイオマス燃料は注目されているが、この間の選択肢でもあったように食料生産との競合が問題である。また、原料確保が難しかったり、資源の収集や管理のコストが高かったりと、さまざまな問題がある。

問 4 10 正解は②

難易度：★★★☆☆

解説

世界のエネルギー需給と産業別人口構成についての問題。統計年次を確認し、それぞれのデータの特徴について丁寧に読み取ってこよう。

- ① エネルギー輸入依存度が最も高い。よって、OECD 加盟国の中で 2 番目に輸入依存度が高く、東日本大震災以降さらに化石燃料の輸入が増加している日本だとわかる。
- ② エネルギー輸入依存度が日本ほど高くなく、鉱工業就業人口の割合が最も高い。よって、風力発電や太陽光発電などの再生可能エネルギーの開発が進み、ルール地方を中心に機械・化学工業などが盛んなドイツだとわかる。正解は②となる。
- ③ エネルギー輸入依存度がプラスであり、全体としては輸入に依存しているが、日本やドイツと比べ、依存度は低い。よって、北海油田からのエネルギーを利用できるイギリスと考えられる。北海油田は 1960 年に発見されたヨーロッパ最大の油田で、エネルギー輸入依存度を低減させているが、生産コストは高い。なお、北海油田はイギリスのほかにもノルウェーが多く利用している。
- ④ エネルギー輸入依存度が 4 国で最も低く、マイナスである。よって、石炭や天然ガスなどが国内で生産可能であり、石炭の輸出量世界 2 位（2012 年）のオーストラリアとわかる。オーストラリアは、旧宗主国であるイギリスの EC 加盟以降、日本やアメリカ合衆国、中国など太平洋地域の国々との結びつきを強めている。

問 5 11 正解は④

難易度：★★☆☆☆

解説

石炭の生産量、輸出量、消費量を判別する問題。ここは確実に得点したい。中国やオーストラリア、日本など特定の地域に着目して解いてこよう。

- ア 人口が多く、経済成長の進む中国やインドで多く、資源大国であるオーストラリアで非常に少ない。石炭の生産量、輸出量、消費量の中で、国内需要の少ないオーストラリアで少ないのは消費量とわかる。なお、日本やアメリカ合衆国と比べて中国の値が大きくなっているのは、発展途上国の中国は自国において生産量が多い石炭をエネルギーとして多く消費しているのに対し、日本やアメリカ合衆国などの先進国はエネルギー効率が良い石油や天然ガスなどを多く消費しているからである。
- イ 資源大国であるオーストラリアで多だけでなく、国内需要の大きい中国やインドなどでも多い。よって、生産量とわかる。これは、ウと比較しながら解くとよい。
- ウ 資源大国のオーストラリアはイとウ、ともに割合が大きいのに対し、国内需要の大きい中国やインドは上位8か国に入っていない。これらより、ウは輸出量とわかる。
- 以上より、生産量がイ、輸出量がウ、消費量がアの組み合わせとなる④が正解である。

問 6 12 正解は④

難易度：★★★★☆

解説

世界の主要都市における工業の特徴についての問題。時期やキーワードに着目して、わかるものから解いていこう。

- カ 「20世紀中頃に港湾施設が整備された臨海工業地域」より、発展途上国であるタイの首都バンコクや内陸に位置するデトロイトではないことがわかるので、ロッテルダム（ユーロポート）とわかる。ロッテルダムはライン川の河口に位置する港湾・工業都市であり、ロッテルダム港はヨーロッパ最大の貿易港である。
- キ 「大量生産方式による自動車製造」より、デトロイトが当てはまる。デトロイトは、五大湖のヒューロン湖とエリー湖の間に位置し、フォード社のベルトコンベアを利用した大量生産方式により低価格な自動車生産に成功し自動車工業が発達した。しかし、近年は工業の中心のスノーベルトからサンベルトへの移行や日系企業の全米への進出に伴い、市の中心企業であった GM 社が衰退・破綻した。2013年には、人口減少に伴う財政悪化によりデトロイト市が財政破綻した。
- ク 「外国からの投資により1990年代以降は自動車組立工業が発達」より、バンコクが当てはまる。タイでは、プラザ合意後の円高に伴う日系企業の海外進出先として外資導入が進み、輸出指向型工業が発達した。なお、近年 ASEAN では域内分業化も進んでおり、メコン川流域では、大メコン経済協力プログラムが推進され経済協力が拡大している。

以上より、デトロイトがキ、バンコクがク、ロッテルダム（ユーロポート）がカ of の組み合わせとなる④が正解である。

◆参考 タイの工業化

	工業化の特徴	結果
1960 年代～1971 年	輸入代替型工業 （国内産業保護，インフラ整備）	国際競争力の喪失，国際収支悪化
1971 年～1986 年	輸出指向型工業化 への転換（外資の選択的導入，工業地の地方への分散）	工業化の進展，大企業主導
1980 年代半ば以降	外資導入の促進， 技術指向型工業化 （日本の円高を背景に，日本を中心に直接投資が増加，技術導入が進む），地方開発	経済成長（輸出の増加）， アジア通貨危機 （1997 年）で景気が一時停滞するが復活

(柿沼麻衣花，石川卓郁)

2017 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 3 問 都市・村落と生活文化

出題範囲	人口, 村落, 都市
難易度	★★★★☆☆
所要時間	8 分
傾向と対策	代表的な都市や村落の特徴, 都市・村落間の移動による人口増減などが問われた。具体的な都市や村落をおさえる問題が前半に続いたが, 集村と散村の特徴の違いなど, 用語の正しい理解が前提である。成り立ちなどに関連させながら覚えておこう。大問の後半では, 戦後の日本社会の動向について細かい年代ごとに問われている。例えば石油危機の時期など, 大きな出来事を把握した上で, 約 5 ~ 10 年ごとに区切って大まかな時代の特徴を掴むよう意識していこう。

問 1 13 正解は②

難易度：★★★★☆☆

解説

世界の各都市における住宅の特徴についての問題。都市が発展する経緯の違いにより, 形成される住宅地の様相は異なったものになる。このことを踏まえて選択肢を見ていき, 適当でない下線部を含むものを選択しよう。

- ① 正 写真アのモスクワは, ソ連時代に計画的に作られた**集合住宅**が郊外に立ち並ぶ都市である。よって, 「建物が整然と配置された集合住宅地区」という表現は正しい。
- ② 誤 写真イのロサンゼルスは, アメリカ合衆国の大都市である。19 世紀から発達したアメリカ合衆国の都心部では, 建物の老朽化などを背景に**インナーシティ問題**が深刻化している。郊外では都心部から流出してきた高所得者層が戸建て住宅に住み, 都心部では移民などの低所得者層や高齢者が取り残されたが, 近年, 都心部では再開発により高層ビルが建設され, 住宅や商業施設の高級化が進み, 高所得者層が流入している。こうした現象は**ジェントリフィケーション**と呼ばれる。したがって, 写真イのような, **駐車場付きの低層戸建て住宅が形成されるのは, 都市の郊外であり, 都心部ではない**。この選択肢の下線部は誤っており, これが正解である。
- ③ 正 写真ウのアモイは, 中国の**経済特区**の 1 つであり, 近年経済成長が著しい。その急成長に伴い無秩序に開発が進み, 従来の低い建物の中に新たに建てられた高層ビルが混ざって密集している。このように, 都市周辺部で無秩序な開発が行われることを**スプロール現象**と呼ぶ。よって, この選択肢は正しい。
- ④ 正 写真エのニュルンベルクは, 中世から発達してきたドイツの古い都市である。**旧市街の歴史的景観は保全され高層ビルの開発は規制されている**ので, この選択肢は正しい。

問 2 14 正解は④

難易度：★★★☆☆

解説

都市や村落における成り立ちの違いについての問題。選択肢の各都市や村落の特徴を見ていこう。

- ① 誤 古代の日本において唐の長安を模して建設された都市は、**条坊制**の都市であり**街路が基盤の目状に縦横に直交している**という特徴がある。したがって、選択肢文中の放射・環状は誤りである。放射環状路型の道路網をもつ都市の代表例はオーストラリアの首都**キャンベラ**である。
- ② 誤 江戸期の幕藩体制下の日本では、都市も村落もほぼ例外なく自治権は認められず、博多などの一部の港町を除いて自由都市は存在しなかったため、この選択肢は誤りである。参勤交代に用いられる主要な街道の要衝に形成されたのは**宿場町**である。
- ③ 誤 アメリカ合衆国の**タウンシップ制**では、各農家が広大な耕地を確保し**散村**が形成された。よって、**集村**というのは誤りである。
- ④ 正 **マンチェスター**は、イギリスの**ランカシャー地方**に含まれ、綿工業で栄えた**産業革命発祥の地**である。**エッセン**は、ドイツの**ルール炭田**に隣接し、かつ**ライン川**が近くを流れ、近代に炭田立地型の**鉄鋼業が発達した工業都市**である。したがって、この選択肢は正しく、正解は④である。

問 3 15 正解は④

難易度：★★★☆☆

解説

各国における人口の偏在の度合いと、国内での地域間経済格差の度合いの大小を考える問題。気候などの自然条件と、近年の人口や経済発展の様相といった社会条件をあわせて見ていこう。

オーストラリアは、国土の大半が**アネクメーネ（非居住地域）**である**砂漠気候（BW）**または**ステップ気候（BS）**であり、**エクメーネ（居住地域）**である**温帯の臨海部に都市が形成され人口が偏り**、偏在の度合いは大きい。また、先進国であり国内間の経済格差が小さいことから④が当てはまり、これが正解である。

残りの3か国の判別をしていこう。1人当たり総生産の国内地域間格差が最大である③は、メキシコである。なぜなら、メキシコなどのラテンアメリカ諸国では、租税制度の導入といった社会改革が不十分であるため、旧来の富裕層が温存され**経済格差は大きいまま**になっているからである。また、人口の偏在の度合いも大きいのが、これは首都の**メキシコシティ**が**プライメートシティ**として発達し人口の偏りが大きいことによるものである。

①は、③の次に**1人当たり総生産の国内地域間格差が大きい**ことから、南アフリカ共和国が当てはまる。この国では、都市部の急速な経済発展に対し農村部では発展が遅れ経済格差が大きい。また、アパルトヘイト撤廃以降、人種間格差は是正されてきているものの、鉱山などで働くブルーカラー労働者と、中上流階級のホワイトカラー労働者との間の所得格差は拡大している。

残る②がオランダだが、狭く低平な国土が広がり人口の偏在は小さく、国全体が経済発展した先進国であり国内の経済格差も比較的小さいことから整合する。

問 4 16 正解は⑤

難易度：★★★★☆

解説

1985 年以降の東京圏における人口増減を考える問題。年代ごとに、社会増加率と自然増加率の推移を見ていこう。

■ 1985 年～1990 年：円高が進行していく中で、日銀の低金利政策のもと、東京都心への**一極集中**が始まり**バブル経済**に移行した期間である。都心部にオフィスが集積し都心部の地価が高騰したため、ニュータウン開発によって郊外で住宅地供給を増やした。つまり**都心部における居住人口は減少し、郊外における居住人口は増加する**という**ドーナツ化現象**が起こったのである。これに当てはまる図はクである。

■ 1995 年～2000 年：1991 年のバブル経済崩壊後、都心の地価は下落したため都心部での再開発が始まり住宅供給は増えた。これにより**都心部の人口は社会増加した**。また、この時期にはまだ千葉県の郊外などで大規模なニュータウン開発が行われており、郊外に人口増加地域がみられるのもこの時期の特徴の一つである。したがって図カが当てはまる。

■ 2005 年～2010 年：都心再開発の影響で都心部に流入した若年夫婦層が多く、都心での出生率はやや上がり、**社会増加に加え自然増加もみられる**。一方で東京圏の周縁部では、日本における全国的な少子高齢化の進行の動きと同じくして**人口減少が進んだ**。よって、周縁部に人口減少地域の多い図キが当てはまる。

以上より、正解は年代順に⑤のク→カ→キである。ただ、実際のところカとキの順番を判定するのは難しい。しかし、クの次にくるものとしてキをもってくるのでは、周縁部での人口が減少に転じたことが唐突であるし、キの次にカがくることになり周縁部での人口が今度は増加に転じたことが説明できない。このことから、図の推移の連関性を考えてク→カ→キと並べるほうが妥当、としても良いだろう。

◆参考 日本の人口移動について

東京圏に限らず、日本全国の人口移動について、高度経済成長期から見ていこう。

1955 年～：地方から三大都市圏へ、若年労働力層（＝「金の卵」）が流入

→三大都市圏で過密化、地方で過疎化

1970 年代：三大都市圏で郊外化が進む→郊外の無秩序な開発（＝**スプロール現象**）

→都心では**ドーナツ化現象**

→地方中枢都市（札幌・仙台・広島・福岡など）への U ターン、J ターン

1985 年～：東京への**一極集中**（→都心の地価高騰→**バブル経済**）

1990 年代：**バブル経済崩壊**→I ターン

2000 年代：都心で**バブル経済崩壊後の地価下落**→都心の**再開発**→**都心回帰**

問 5 17 正解は③

難易度：★★☆☆☆

解説

日本における高齢化の進行の地域差を考える問題。下線部①～④が正しいかどうか、図を1つひとつ見ながら吟味していけば正解にたどり着けるようになっている。

- ① 正 老年人口率について、左の図を見てみよう。三大都市圏である東京・大阪・名古屋周辺よりも、東北や北陸、四国などの地方の方が老年人口率は高位であることが読み取れる。よって下線部は正しい。
- ② 正 中央の図より、老年人口の増加率は三大都市圏で高位であるとわかるので、下線部は正しい。
- ③ 誤 右の図を見ると、老年人口1,000人当たりの養護老人ホーム定員数は、九州や中国、東北などの地方が高位であり、**三大都市圏は低位**となっている。したがって、この選択肢は誤りであり、これが正解である。
- ④ 正 高度経済成長期に流入した若年層とは、1965年前後に地方で中学校や高校を卒業し（この時15歳や18歳）、三大都市圏に流入した**団塊の世代**であることがわかる。この世代は、出生率の高い中で1947年～1949年に生まれた世代であり、2012年～2014年に65歳以上となり老年人口に参入することになった。高い出生率の下で人数の多い世代であったため、老年人口率が高くなる要因となっている。よって、この下線部は正しい。

(伊藤麻祐, 石川卓郁)

2017 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 4 問 中国の地誌

出題範囲	小地形, 気候, 環境問題, アジアの農業, 東アジア地誌
難易度	★★☆☆☆
所要時間	8分
傾向と対策	中国に関する地誌問題である。中国の地形, 気候, 農業, 民族問題, 環境問題などについてバランスよく出題されている良問である。教科書レベルの知識をおさえることは必須だが, 細かな知識を要求する問題は少なく, 地理的な思考力が問われている。学習の際には教科書だけでなく地図帳を開き, 地形や気候, 資源の分布を確認することに加え, 日頃からニュースに目を通すことも重要である。

問 1 18 正解は④

難易度：★★☆☆☆

解説

中国の地形についての問題。中国の地域ごとの地形, 気候の特徴をおさえていれば解答は難しくない。教科書を確認しよう。

- A チベット地方に位置する。ヒマラヤ山脈にあるため, 標高が高く山岳氷河が分布する。よってウが該当する。モレーンは氷河により削られた土砂が堤防状に堆積したものである。
- B 黄河流域のホワンツー（黄土）高原に位置する。黄河流域では偏西風によりゴビ砂漠から飛散した黄土（レス）が堆積する。よってアが該当する。
- C コワンシー（広西）チョワン（壮）族自治区のコイリン（桂林）である。石灰岩からなるカルスト地形のコイリンは高温多雨のため溶食が進みやすく, 溶食されずに残った石灰岩の塔が林立するタワーカルストが形成された。よってイが該当する。

以上より, アが B, イが C, ウが A の組み合わせとなる④が正解である。

問 2 19 正解は③

難易度：★★★★☆☆

解説

中国各地の気候をハイサーグラフを見て答える問題。緯度と隔海度に注目して解いていく。②と③の区別が難しいが, 標高にも着目できると解答が容易となる。個々の地名と気候区分を対応させて暗記するのではなく, 地域ごとの地理的条件から気候を理解して覚えよう。

まず, 都市に着目しよう。

- J ウルムチである。内陸部に位置し隔海度が大きいことに加え、周囲を高い山脈に囲まれて降水量が少ないため内陸砂漠が形成されており、砂漠気候 (BW) である。
- K シェンヤンである。高緯度地域の大陸東岸に位置し、冬季に大陸からの乾燥した季節風が卓越するため、冬の降水量が少なく気温の年較差も大きい。亜寒帯冬季少雨気候 (Dw) に属する。
- L フーチョウである。中緯度に位置し、海洋性気候であり、降水量が多く四季が明瞭である。温暖湿潤気候 (Cfa) に属する。
- M クンミンである。L との区別が難しい。内陸部であり、ユンコイ高原に位置するため標高が高く、気温が低い。最も南に位置し、亜熱帯高圧帯 (中緯度高圧帯) の影響で冬季は乾燥する。温暖冬季少雨気候 (Cw) に属する。

次に、ハイサーグラフを見ていこう。

- ① 気温、降水量ともに年較差が大きい。最寒月平均気温が -3°C 以下であり、冬季の降水量が夏季に比べ極端に少ないことから、亜寒帯冬季少雨気候 (Dw) となる。K のシェンヤンがこれにあたる。
- ② 最寒月平均気温が -3°C 以上 18°C 未満で、降水量も年間を通じ比較的安定していることから温暖湿潤気候 (Cfa) と判断できる。これが L のフーチョウにあたる。
- ③ ②に近いが、②に比べ夏季の気温が低く、降水量の年較差も大きい。夏季の気温が低いのは標高が高いからであり、M のクンミンがこれにあたる。よって、③が正解である。
- ④ 年中降水量が少なく、気温の年較差も大きい。砂漠気候 (BW) であり、J のウルムチがこれにあたる。

問 3 20 正解は③

難易度：★★☆☆☆

解説

図をもとに中国の農業分布を答える問題。イモ類の分布は覚えていない人も多いかもしれないが、ほかの2つの作物との違いを考えていくと解ける。それぞれの地図から、上位の省の分布の特徴と農作物の栽培特性を関連付けて考えていこう。

- カ 淮河以南、特に南部の雲南省で作付面積が多い。茶は年中高温多雨な排水良好な丘陵地を好むため、淮河以南での生産が盛んである。よってカが茶である。
- キ 内陸部で作付面積が多い。イモ類は茶や野菜に比べ、耐寒性が強くやせた土地や降水量の少ない土地でも栽培が可能であり、降水量の少ない内陸部や冷涼な北部でも生産可能である。よってキがイモ類である。
- ク 黄河、淮河、長江の下流域で作付面積が多い。これらの河川の下流域には平野が広がっており、野菜の栽培には適している。また、この地域には上海を始めとした大都市が多く存在する。野菜は鮮度が重要なため大都市近郊での近郊農業が盛んである。よってクが野菜となる。

以上より、カが茶、キがイモ類、クが野菜の組み合わせとなる③が正解である。

◆重要 中国の農牧業地域

中国の農牧業地域の区分は中国地誌の問題を解く上で必須の知識である。確認しよう。

- ・東北地方：トウモロコシ，こうりゃん，大豆など
- ・華北地方：冬小麦，大豆など
- ・長江流域：米，小麦
- ・華南地方：米の二期作，茶
- ・西部地方：牧畜，オアシス農業

チンリン＝ホワイ川線：年降水量 1,000mm の境界線

→淮河以北は畑作中心，淮河以南は稲作中心

問 4 21 正解は④

難易度：★☆☆☆☆

解説

図を読み取り，間違った内容の文章を選ぶ問題。この問題では中国の大気汚染について問われている。

- ① 正 図を見ると，北京周辺の P 地域の硫黄酸化物濃度は高位である。P 地域は中国最大の炭田である **タートン（大同）炭田** などの豊富な石炭や鉄鉱石を背景に，古くから重工業が発達しており，**中国の粗鋼生産の中心地である**。これらの地域では環境対策が不十分で，有害物質による **大気汚染が深刻化している**。
- ② 正 図を見ると，東北部の Q 地域で硫黄酸化物濃度は高位である。Q 地域は **寒冷な東北部に位置するため，冬季の暖房使用が多い**。中国の暖房用燃料の多くは石炭であり，これが大気汚染の原因となっている。
- ③ 正 図を見ると，南部の R 地域では硫黄酸化物濃度は低位である。R 地域は南部の **経済特区** である。外資を中心に 1980 年代に発展したこの地域は機械の組み立て工場が多く，**環境対策も他の地域よりも進んでいるため汚染物質濃度は低い**。
- ④ 誤 中国の大気汚染物質が日本や朝鮮半島に影響を及ぼす要因となるのは，**貿易風ではなく偏西風** である。よって，④が正解である。基本的な知識を問う問題なので確実に正解したい。

問 5 22 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

文章を読み，正しい内容の選択肢を選ぶ問題。少々細かい知識が問われる。沿岸部と内陸部の格差，**西部大開発**について確認しよう。

- ① 誤 中国では戸籍を農村戸籍と都市戸籍に分けている。これは食料供給安定のために導入された制度だが、移住の制限、進学優遇、社会保障などさまざまな点で農村出身者と都市出身者の格差を広げる要因となっている。
- ② 誤 シャンハイ（上海）は古くから中国経済の中心であり、1970年代後半の改革開放政策以降さらに発展している。生活インフラや家電の普及も進んでいる。雇用を求めた内陸部からの出稼ぎに伴う人口流入も激しい。
- ③ 誤 中国最大の油田はチンハイ省の油田ではなく、北東部へイロンチヤン（黒竜江）省のターチン（大慶）油田である。西部大開発では、天然ガスを中国西部のガス田からパイプラインを通じて大消費地の沿岸部へ輸送している。
- ④ 正 チンハイ省シーニン（西寧）とチベット自治区のラサを結ぶチンツァン（青蔵）鉄道が開通し、観光業などチベットの経済成長に貢献している。よって、④が正解である。

◆参考 西部大開発

中国では、経済特区が設置された沿岸部と農村が残る内陸部との経済格差是正のために、インフラ整備を中心とした西部大開発が行われた。ここでは具体的に行われた開発内容を確認しよう。

・「西電東送」

西部の豊富な石炭・水を活用して発電し、電力の不足する東部沿岸に送電する。

・「南水北調」

水が不足する北部へ、南部の長江などから運河を通じて送る。

・「西気東輸」

西部の天然ガスを、パイプラインを整備して需要の高い東部へ送る。

・チンツァン
青蔵鉄道の開通

チンハイ
青海省のシーニンとチベット自治区のラサを結ぶ鉄道。2006年7月1日に全通した。

・「退耕還林」

農地開発や森林伐採による森林破壊や土壌流出の改善のため植樹を行う。

問6 23 正解は①

難易度：★★☆☆☆

解説

文章を読み、間違った内容を含む選択肢を選ぶ問題。中国の少数民族については教科書に記述があるので見直しておこう。

- ① 誤 中国国内には55の少数民族が住んでおり、少数民族の文化を尊重するために教育では民族独自の言語

の使用を許可している。よって、正解は①である。

- ② 正 中国では中華人民共和国成立以降、共産党が漢民族の西部入植を進めてきた。政府は少数民族のデモに対し武力介入することがしばしばあり、漢民族と少数民族の間の衝突が起きている。
- ③ 正 中国の少数民族の風俗習慣は多様である。例えばウイグル族やホイ（回）族はムスリムが多く、チベット族やモンゴル族はチベット仏教の信仰が盛んである。
- ④ 正 地域独自の自然環境や文化は観光資源となる。例えば、コワンシー（広西）チョワン（壮）族自治区のコイリン（桂林）には、高温多湿な地域で降水により石灰石が溶食されて形成されたタワーカルストが存在し、観光資源となっている。

◆重要 中国の民族と自治区

・シンチヤンウイグル自治区

おもにトルコ系民族のウイグル族が分布している。人口の約半数以上がイスラーム教徒である。また、オアシス農業が盛んである。区都はウルムチ。オアシス農業の農業用水を導水するのに、カンアルチンと呼ばれる地下水路を利用している。

・チベット自治区

チベット仏教（ラマ教）を信仰するチベット族が居住している。チベット高原に位置しており、ヤクや羊の遊牧が行われている。区都はラサで、チベット仏教の聖地である。

・内モンゴル自治区

モンゴル族が居住している。区都はフホト。

・ニンシヤ回族自治区

アラブ系の、イスラームを信仰する回（ホイ）族がおもに分布している。区都はインチョワン。

・コワンシー壮族自治区

中国の少数民族の中で最も人口の多い壮（チョワン）族がおもに居住している。溶食地形のタワーカルストが存在するコイリン（桂林）が区内にある。区都はナンニン。

（藤田太郎，石川卓郁）

2017 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 5 問 ドイツとスペイン

出題範囲	大地形, 気候, 農牧業, 第三次産業, 人口, 都市, 貿易, 民族
難易度	★★★☆☆
所要時間	8 分
傾向と対策	スペイン, ドイツに関連して, 地形, 産業, 歴史といった幅広い知識を問う大問であった。問 1, 問 2 はヨーロッパ全体の地形・気候がイメージできれば解ける問題である。大地形・気候の分布を見る際は, 国境がどこを通過しているかも念頭に置いておこう。問 3 は難問であり, ドイツの特徴を正しく把握・イメージできるかが問われた。教科書・講義などで学んだ地誌をもとに解答を導く必要がある。このような問題に対応できる思考力を養うため, 問題演習でわからない問題に直面したときは解答を見る前に自分でじっくり考えるようにしよう。

問 1 24 正解は③

難易度：★★★☆☆

解説

ドイツ・スペインの地形, 気候についての問題。大地形, 気候分布をイメージできれば解答は容易であろう。

- A** イと比べて**全体的に標高が高く**, 1,500m を超えるところも存在している。これはスペインである。スペインには新期造山帯の**アルプス・ヒマラヤ造山帯**が走っており, 全体的に標高が高い。
- I** **全体的に標高が低く**, 北部は 500m 未満となっている。これは**ドイツ**である。ドイツは北部が**北ドイツ平原**に属し低地となっている。また, ドイツはアルプス山脈の北に位置しており, **北部より南部の標高が高くなっている**。
- A** B と比べ**全体的に降水量が多い**ことがわかる。これは**ドイツ**である。イギリス, フランス, ドイツといった西ヨーロッパの国は**西岸海洋性気候 (Cfb)** に属しており, ヨーロッパの中では比較的降水量が多い。
- B** **全体的に降水量が少ない**ことがわかる。これはスペインである。スペインは夏季に亜熱帯高圧帯 (中緯度高圧帯) の影響を受けて少雨となり, 年降水量は少ない。このためスペインの南部・西部は**地中海性気候 (Cs)** に属している。

以上より, 標高が**I**, 年降水量が**A** の組み合わせとなる**③**が正解である。

問 2 25 正解は②

難易度：★★★☆☆

解説

ドイツ, スペインにおける農作物産地の分布を問う問題。各作物の特性をおさえておくことが解答のカギとなる。地中海沿岸の分布が目立つ**②**, **④**とそれ以外の**①**, **③**を分けて考えるとよい。

- ① スペイン南部からドイツの北部まで、**西ヨーロッパの広範囲に分布**していることが推測される。これは小麦である。小麦は栽培の条件が緩く、ヨーロッパで広く栽培されている。小麦から直接①を導くのは難しいため、他を分析した上で選ぶ。
- ② **地中海沿岸の分布**が目立つが、スペイン北部、ドイツ南西部にも分布している。これは**ブドウ**である。**耐乾性作物のブドウは、夏に乾燥する地中海沿岸でよく栽培される**。同じく耐乾性作物のオリーブと混同しやすいが、西ヨーロッパの**ブドウ栽培の北限は北緯 50 度のあたり（ドイツの中部あたり）**であり、地中海沿岸の極めて乾燥する地域に限定されるオリーブの北限よりずっと北にある。ドイツの南西部でブドウが栽培されていることは、ドイツの隣国のフランスがブドウの大産地であることを考えればイメージしやすいだろう。よって、②が正解である。
- ③ ドイツ北部に分布が限定されている。これはライ麦である。**ライ麦は寒冷な気候に耐性をもつため、小麦栽培に適さないヨーロッパの北部の冷涼な地域でおもに栽培**されており、小麦よりも産地は北にある。
- ④ スペイン南部の**地中海沿岸地域に分布が偏っている**。これはオリーブである。②の説明で述べたように**オリーブは耐乾性作物**であり、**栽培の北限は地中海沿岸とほぼ一致する**。

問 3 26 正解は②

難易度：★★★★☆

解説

ドイツとスペインの人口分布・都市についての問題。ドイツの都市の歴史的な特徴に着目できるかがカギである。

- カ 人口の多い都市が西部に集中していることがわかる。これは**ドイツ**である。**ドイツの西部はヨーロッパの中心的地域であるブルーバナナ（青いバナナ）に属しており**、人口の多い都市が多い。特にドイツ北西部は、古くから工業が発達した**ルール地方**があるため人口の多い都市が多く、上位 20 都市のうち 11 都市が北西部に立地している。また、ドイツは冷戦期に東部が社会主義国、西部が資本主義国として分裂していたことにより、東部と西部の間に経済格差が存在している。このことも、西部への人口集中に影響していると考えられる。
- キ カと比べて人口の多い都市が国内で分散している。これはスペインである。あくまで、“人口の多い都市”が分散しているのであり、人口が国土全体に分散しているかどうかは別の問題であることに注意しよう。
- D 人口規模第 1 位の都市と第 2 位の都市に日系現地法人が集中していることがわかる。これはスペインである。**スペインは、後述のドイツと異なり、諸機能が二大都市（バルセロナ、マドリード）に集中しており**、日系企業の進出もその 2 都市に集中している。
- E 人口規模第 1 位の都市には日系企業は少なく、第 2～5 位の都市に分散している。これは**ドイツ**である。人口規模 1 位の都市はベルリンであり、東側に位置していたため、西側の都市と比べて経済力・工業力は劣っており、日系企業の進出も遅れている。また、ドイツは**連邦制**の国であり、**中枢管理機能が多くの都市に分散している**。その結果、第 2～5 位の都市には、日系企業が分散して進出している。

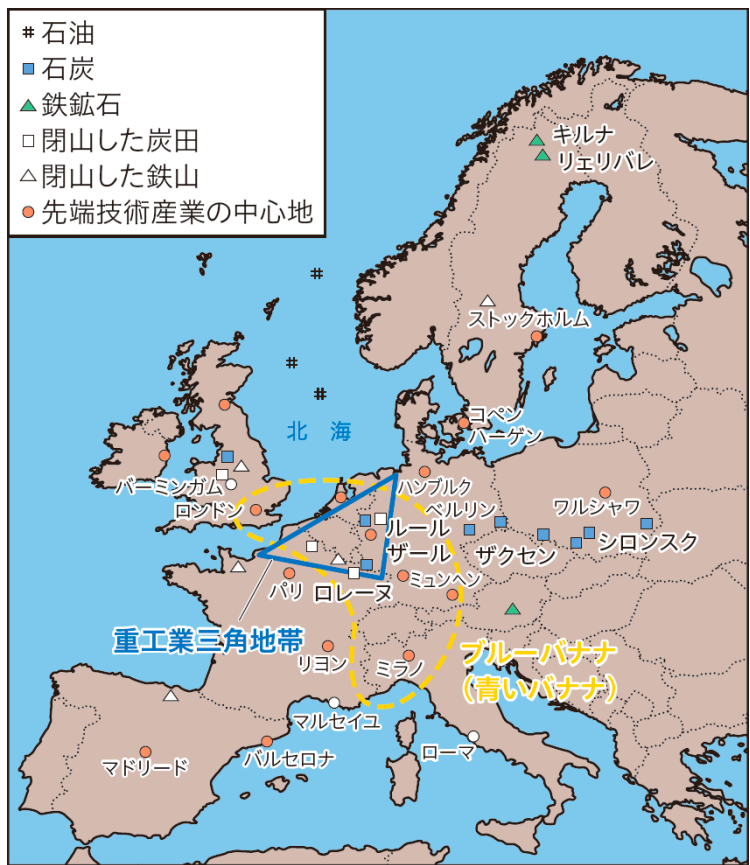
以上より、都市数がカ、日系現地法人数が E となる組み合わせの②が正解である。

◆参考 ブルーバナナ (青いバナナ)

ヨーロッパで最も人口が集中した帯状地域を指す単語。バナナの形をしていることから「ブルーバナナ (青いバナナ)」と名付けられた。なお、青はヨーロッパを指す色として用いられてきたことに由来する。南イングランド、ベネルクス、西ドイツ、スイス、北イタリアなどが属しており、工業・交通・金融・経済が発達した、ヨーロッパの中心地域となっている。

なお、EU の拡大とともに、人件費が安い地中海沿岸で新しい産業の集積が進んでいる。スペイン北東部、南フランス、北イタリアがこれに該当する。

下の地図で位置を確認しておこう。



図：ヨーロッパの主要工業地域

問 4 27 正解は③

難易度：★★★★☆☆

解説

EU 内の国の貿易額を問う問題。各国の経済力の大きさをイメージできるかがカギとなる。貿易額の大きなサ・

シと、貿易額の小さなス・セを分けて考えるとよい。

シ 他の3国に対して輸出超過であり、サとの貿易が盛んである。シはサに対して1,320億ドルもの輸出をしており、4国の中で最も経済力の大きな国であると考えられる。これはドイツである。ドイツはヨーロッパ最大の工業国であり、自動車や医薬品、先端技術産業などが発達した先進国である。

サ シに次いで貿易額が大きく、シ（ドイツ）との貿易も多い。これはフランスである。フランスはドイツほどではないが経済力が大きい。フランスはヨーロッパ最大の農業国であるとともに、ダンケルク・マルセイユ・フォスといった臨海部の都市での鉄鋼業・石油化学工業や、南部トゥールーズでの航空機産業が発展しており、輸出額は大きい。特にヨーロッパで最も経済力の大きな隣国ドイツとの貿易が盛んである。

ス スとセを比較してみると、スの方が、サ（フランス）やシ（ドイツ）との貿易が盛んであるとわかる。残っているのはスペインとポルトガルである。スペインは人口、面積ともにポルトガルよりも大きく、また先進国のフランスに隣接するなど、貿易上ポルトガルよりも有利である。よってスはスペインであるとわかる。スペインはEUの中で比較的労働コストが低く、また市場となるEUの先進国とも近いいため、自動車産業の工場が多く立地している。よって、③が正解である。

セ ポルトガルである。スペインは人口が約4,600万人、面積が50.6万km²（2012年）なのに対し、ポルトガルは人口が約1,000万人、面積が9.2万km²（2012年）とどちらも小さい。このことが影響し、ポルトガルはスペインよりも経済力が小さく、貿易額も小さい。

問5 28 正解は①

難易度：★★☆☆☆

解説

スペイン、ドイツの移民・外国旅行に関する知識を問う問題。誤りが見つけやすく、解答は容易である。

- ① 誤 南アジア（インド、スリランカ）はイギリスの旧植民地であり、スペインとの文化的共通性は薄い。スペインの旧植民地は、アフリカのモロッコや、ブラジルを除く多くの中南米諸国であり、それらの国はスペイン語を公用語としている国も多く、スペインへの移民も多い。よって、①が正解である。
- ② 正 第二次大戦で労働力不足に陥ったドイツは、トルコなどから積極的に労働者（ガストアルバイター）を受け入れた。その結果ドイツは経済発展を果たしたが、キリスト教を信仰するドイツ人とイスラム教を信仰するトルコ人との間では文化摩擦が起きており、雇用が減少する不況時には、トルコ人によってドイツ人の雇用が圧迫されているとして、ドイツ人によるトルコ人の排斥運動が起きている。
- ③ 正 国境を越えた移動が容易なEUでは、域内での海外旅行者が多い。ドイツはEUにおける先進国であり、所得も高いことから、観光資源が豊富で比較的温暖な南欧の国への旅行者が多く、送り出し超過となっている。
- ④ 正 スペインは、サグラダファミリアやアルハンブラ宮殿に代表されるような観光資源を多く有している。また、ヨーロッパの南側に位置し温暖な気候であることから、夏冬ともにリゾート地として人気である。そのためスペインは受け入れ超過となっている。

2017 年度 センター試験 本試験 地理 B

第 6 問 地域調査（長崎県壱岐市）

出題範囲	生活・文化，地図・地理情報，地形図，日本地誌
難易度	★★★★☆☆
所要時間	10 分
傾向と対策	長崎県壱岐市を中心とした地域調査問題である。地域調査の大問に離島が出題されるのは初めてである。離島振興，地方創生へ向けた取り組みが活発に行われていることを反映しているのかもしれない。問題のレベルは標準的で，細かい知識を要するものはない。地形図問題は必ず地図中に答えがあるので，注意深く考察しよう。

問 1 29 正解は①

難易度：★☆☆☆☆

解説

地勢図と文章を見て，間違った記述を選ぶ問題。この類の問題は答えが必ず地図中に示されているので，取りこぼしのないようにしたい。

文章を読みながら，記述に沿って地形図を見ていこう。

- ① 誤りである。地勢図を見ると，島の中心部に 100m の等高線が走っていることに気づく。これは標高 100 m 以上の土地が島内に存在していることを示している。ほかにも，Y の西側に，標高 139 m の三角点が存在していること，南部に 213m の三角点があることを根拠にしてもよい。よって，これが正解である。
- ② 地点 X 付近には水田の地図記号がみられ，河川が流れており，この地域は沖積平野と判断される。また地点 X 付近の河川は内海に注いでいる。よって②の記述は正しい。
- 今回の地勢図は 20 万分の 1 地勢図で，示される等高線の間隔が非常に大きいので，等高線のみを判断基準とするのは危険である。
- ③ 島の西部を見てみると，海岸線に沿って岩の記号が存在しており，海岸線も複雑に入り組んでいることがわかる。これはリアス式海岸の特徴である。リアス式海岸は V 字谷が浸水してできた海岸で沈水海岸に分類される。日本では三陸海岸が有名であるが，志摩半島，若狭湾，長崎県九十九島なども代表的である。
- ④ 正しい。赤瀬鼻付近の海岸には岩の地図記号がついており，海食崖が形成されていることがわかる。

問 2 30 正解は③

難易度：★★★★☆☆

解説

新旧の地形図を比較して，正しい文章を選ぶ問題。これも地図中に答えが示されているので，見落とさないよ

うに注意深く見ていこう。

- ① 芦辺から当田舩に向かう主要道については、大石舩地区付近から新しい道路が開通しているものの、**従来の道は旧道として残っている**。よって①は誤りである。
- ② 芦辺港南北両岸の一部水域は陸地化されているが、北岸は水田として利用されているのに対し、**南岸は住宅地などに利用されている**。南岸の水田地帯は元からの陸地でみられる。よって②は誤りである。
- ③ 1926年の地形図を見ると芦辺港の南岸と北岸を結ぶ渡船が点線で示されている。しかし、**2006年の地形図を見ると、フェリー発着所から島外へ向けての航路は確認できるが、南北を結ぶ航路は存在していない**。芦辺大橋の開通により、芦辺港の南岸と北岸を結ぶ渡船は廃止されたと考えられる。よってこの文章は正しく、③が正解となる。
- ④ 梅ノ木ダムは建設されているが、付近に**発電所の地図記号は存在しない**。よって、梅ノ木ダムは発電用ダムではないと判断でき、④は誤りであるといえる。水不足に陥りやすい離島では灌漑用のダムが建設されることも多い。

問 3 31 正解は①

難易度：★★★★☆

解説

地形図と景観を組み合わせる問題。やや難しい問題だが、地形図にある細かい情報を見落とさないよう慎重に解いていこう。

- A まず、写真では手前には広大な水田が広がっているため、図3で矢印の前方に水田の記号が見られるアとウに絞られる。次に、写真の後方にある**なだらかな山が水平方向に広がっている**ことから、図3においてアとウのうち後方にある山の**等高線が矢印に対し垂直なアとわかる**。
- B **記号の前方に水田でなく畑や荒地が見られる**。よって、矢印の前方に水田の記号が見られないイが該当する。なお、写真の手前から奥にかけて標高が低くなっていることからイとわかる。
- C まず、写真では手前に広大な水田が広がっているため、Aと同様に矢印の前方に水田の記号が見られるアとウに絞られる。次に、写真の後方には**左右に山があり、中央部は矢印から後方に行くにつれて標高が低くなっている**。これに当てはまるのはウとわかる。

以上より、**Aがア、Bがイ、Cがウ**の組み合わせとなる①が正解である。

問 4 32 正解は③

難易度：★★☆☆☆

解説

模式図を見て、背戸山と呼ばれる樹林の形成目的を答える問題。模式図の中に方位が示されていることに気づくこと、大問6の最初の地形図から壱岐島の位置関係を読み取ることが重要である。

まず、模式図を見ると**背戸山は住宅の北側に形成されていることがわかる**。次に、壱岐島は長崎県の北部に位

置し、北と西は日本海であるため、冬季には大陸からの北西季節風の影響を強く受ける。このことから、背戸山は冬季の大陸からの北西季節風を防ぐために形成されたのだとわかる。よって正解は③となる。

- ① 誤 竜巻は大気の状態が不安定になり積乱雲が発達することで起きる現象であり、日本各地で発生する。しかし、竜巻によってなぎ倒された樹木が家屋を破壊してしまう危険性があるため、民家の付近に樹木を形成することはかえって被害を拡大させてしまうと考えられる。
- ② 誤 フェーン現象は、乾燥した空気と湿った空気との気温の遞減率の違いから、湿った風が山を越えて吹き降ろす際に高温の乾燥風となる現象である。しかし、壱岐島は標高が低いため、フェーン現象は発生しない。
- ④ 誤 やませは、東北地方太平洋側で初夏にオホーツク海気団から吹き込む寒冷湿潤風であり、冷害を引き起こす。よって九州地方の壱岐島では発生しない。

問 5 33 正解は④

難易度：★★☆☆☆

解説

日本の地理と統計資料の読み取りに関する問題。比較的解きやすい問題であるから、確実に得点したい。

カ 図 1 から、壱岐島は九州の北西部に位置することがわかる。九州北西部に流れ込む海流は対馬海流であり、暖流とわかる。日本には、暖流の対馬海流、黒潮（日本海流）、寒流のリマン海流と親潮（千島海流）が流れ込み、日本各地の気候に影響を与えている。

キ 漁家の経営規模を知るには、表 1 の 1 経営体当たり漁船数を見ればよい。全国では 1 隻の割合は 9 割に満たず 2～4 隻の割合が 1 割を超えているのに対し、壱岐市では 1 隻の割合が全体の 9 割以上を占め、2～4 隻、5 隻～の割合はいずれも全国平均に満たない。よって、全国に比べて壱岐市の漁家の経営規模は小さいといえる。

以上より、カが暖流、キが小さいの組み合わせとなる④が正解である。



問 6 34 正解は①

難易度：★★★☆☆

解説

複数の指標から正しい選択肢の組み合わせを選ぶ問題。一度に処理しようとするとう混乱するため、特定の地域に注目し、順番に考えていこう。この時に、左上の人口規模の指標と第 6 問の最初の地形図は気に留めておこう。

まず、地図上の特徴を見つける。**長崎市に注目すると F のみ下位である**。長崎市は長崎県の県庁所在地であるため都市機能の多くが集中し、商業施設、医療施設ともに充実していると考えられる。また、左上の図より人口も最も多い。逆に、**複式学級は児童数の少ない小学校で用いられる方式**である。よって、長崎市で唯一下位となっている F は小学校の複式学級率であるとわかる。

次に壱岐市と図の左上に示された対馬市に注目する。離島である**これらの島では G のみ下位**となっている。**離島では高齢化が進んでいるのに対し、医療所・医師数が少なく問題となっている**。よって、G は人口 1,000 人当たりの医師数とわかる。

最後に E だが、県庁所在地の長崎市と離島で上位となっている。**離島は島外の他の市町村との交通の便が悪いため、買い物は島内で済ませることが多い**。また県庁所在地の**長崎市は商業施設が集積しているため、市内で買い物を済ませることが容易である**。よって、E は居住する市町村で買い物をする割合となる。

以上より、居住する市町内で買い物をする割合が E、小学生の複式学級率が F、人口 1,000 人当たりの医師数が G の組み合わせとなる①が正解である。

問 7 35 正解は③

難易度：★★☆☆☆

解説

地域調査の手法について問う問題。比較的簡単な問題であるから、確実に得点したい。

- ① 正 気象庁のウェブサイトでは、過去の気象データの検索ができ、降水量、風、気温のほか、日照時間や積雪などの情報が得られる。また、防災情報の波浪観測情報から波の高さについても調べることができる。
- ② 正 地域郷土史に関する文献の中には、過去に起こった災害についての情報も含まれていると考えられる。
- ③ 誤 AMeDAS（アメダス、自動気象観測システム）とは、気温、風速、降水量、日照時間などの**気象状況を自動観測する**もので、災害にともなう被害家屋や被害者の数などの**被害状況を知ることはできない**。なお、大雨による被災家屋や被災者の数を知るためには、気象庁の各種データ・資料の中の災害をもたらした気象事例などを見るとわかる。
- ④ 正 海拔高度や海岸線の形状などの地形を調べることで、津波で浸水する範囲をある程度予測することができる。

（藤田太郎，柿沼麻衣花）